

# たんちよう

JAくしろ丹頂  
広報誌

vol.119  
2017.8

くしろ丹頂

## 釧路種馬共進会



最高位受賞「琴舞姫」幌呂 松井紀行氏 所有

### CONTENTS

- 第108回 釧路種馬共進会 ————— 1
- 第15回「まつりinほろろ」/白糠・農村サマーフェスティバル — 2
- 日本獣医生命科学大学 酪農実習体験  
釧路管内JA女性部員交流会 ————— 3・4
- 日本獣医生命科学大学の学生による感想文 — 5・6
- 普及センターだより ————— 7
- JA北海道大会・パネリストからの提言 ————— 8
- JAグループ通信 ————— 9
- JA北海道中央会根釧支所からのお知らせ ————— 10
- 秋の全国交通安全運動のお知らせ ————— 11
- 釧路管内JA野球大会/退職者  
JAカレッジからのお知らせ ————— 12
- 理事会報告/生乳生産実績/電話番号直通のご案内 — 13



管内JA野球大会 連覇達成!!

# 第108回 釧路種馬共進会 開催

～手塩にかけた出品馬が集い資質を競う～



松井紀行氏・最高位の表彰式



審査員：山下 大輔 氏

品馬「琴舞姫」(3部・2才雌・日本輓系種)がみごと選出されました。主な成績及び出品者は表のとおりです。

七月二十四日、釧路市大楽毛・釧路農協連共進会場で、第108回釧路種馬共進会が開催されました。

審査員は山下大輔氏(公益社団法人 日本馬事協会業務部参事)が務め、第2部1才雌馬から第7部ポニー2才以上雌馬までの各部を審査しました。



「栄 姫」江崎 勝三 氏 (白糠)



「天 空 海」小野田 喜一 氏 (音別)

入 賞 馬 一 覧				
最 高 位 賞				
琴 舞 姫		松 井 紀 行 (幌 呂)		
部	順位	名 号	品 種	出 品 者 (地区)
3部	1等	琴 舞 姫	日 本 輓 系	松 井 紀 行 (幌 呂)
5部	1等	栄 姫	ペ ル シ ュ ロ ン	江 崎 勝 三 (白 糠)
6部	1等	友 花	北 海 道 和 種	平 田 忠 幸 (鶴 居)
	2等	勝 緑	北 海 道 和 種	平 田 忠 幸 (鶴 居)
	3等	天 空 海	北 海 道 和 種	小 野 田 喜 一 (音 別)
7部	2等	コ リ ナ	日 本 ポ ニ ー	平 田 忠 幸 (鶴 居)
	3等	菜 月	シ ョ ッ ト ラ ン ド ポ ニ ー 系	平 田 忠 幸 (鶴 居)



「コ リ ナ」平 田 忠 幸 氏 (鶴 居)



# 第15回「まつりinほろろ」開催

～地元民が多数参加・幌呂地区の活性化を念願～



女性部幌呂支部による手作り惣菜は大変好評!



挨拶する藤澤常行  
実行委員長

藤澤  
実行委  
員長か

七月二十八日、幌呂農  
村環境改善センターで、  
第15回「祭りinほろろ」  
が開催されました。  
祭りinほろろ実行委員  
会(幌呂の農業者で構成)  
が主催し、会場は組合員  
の皆様や親子連れで賑わ  
いました。

雨天ですが、日頃の農作  
業の疲れをいやして頂き、  
幌呂地区の活性化につな  
がれば幸いです。」と挨拶  
がありました。  
会場では女性部による  
手作りの惣菜なども格安  
で販売され、カラオケ大  
会などで大変盛り上がり  
ました。



当JA新人職員による「ブルゾンちえみ with T」

# 白糠・農村サマーフェスティバル 開催

～白糠・音別の若人が集い、友情と連帯の輪を広める～



對木専務も熱戦に参加!

八月四日、白糠町和天  
別・旧河原小中学校で、  
JA青年部音白支部及び  
4日クラブ主催の農村サ  
マーフェスティバルが開  
催されました。  
昼の部は、ソフトボー  
ル大会を行ない、熱戦が  
繰り広げられました。  
夜の部は、焼肉を囲ん  
で懇親会が行なわれ、情

報交換を図りつつ親睦を  
深めました。余興は、早  
食い早飲み競争や花火師  
を呼んでの花火大会、青  
年部メンバーによるバン  
ド「アンピシリン」(バ  
ンド名の由来は実在する  
バンド・ペニシリンと牛  
の抗生剤名をもじる。)に  
よる生演奏で会場は大  
いに盛り上がりました。



早食い早飲み競争! 負けられません!

# 貴重な酪農実習体験を終えて

※8月下旬、日本獣医生命科学大学の学生を連携協定の一環として1農場に受け入れました。

受入先(有)鈴木農場



日本獣医生命科学大学  
動物科学科1年  
堀野 怜奈 さん

私は、将来どんな仕事か、したいか、どのような職種につきたいか、など全く念頭になくただ漠然と大学生活を送っていました。このまま大学生活を棒に振りたくない：何か、目的を持って大学に通いたい。そんな想いを抱えたまま、ただ流れるがままに実習先に決まったのがここ、鶴居村です。酪農の知識や経験のない私が、見知らぬ土地で果たして何かをつかむことが出来るだろうか。期待と不安で胸をいっぱい膨ら

ませながら鉦路の地に降り立つと、JA鉦路丹頂農協の坂本部長と職員の行田さんに、車で迎えに来ていただきました。車での移動中、まず目についたのが放牧されていたホルスタインです。普通に当たり前のようについて、牧草を食べている牛達の様子を見て、初めて酪農の地に来たという実感が湧きました。大学の授業のスクリーンで少しは見かけていたホルスタインですが、実物が目の前で動いている姿を見ると、想像以上の大きさにとても驚きました。そして、見渡す限り緑、緑、緑。農家さんにとっては見慣れた光景でも、広大な土地と高く青い空というのは私にとっては本当に眩しかったです。

鶴居村の鈴木農場に到着すると、たくさんの牛が迎えに来てくれたように見えました。牛舎の中にはトータル200頭余りの牛が暮らしていて、その数の多さを実際に目の当たりにすると、苦労がとても伝わってきました。飼育や分娩・搾乳まで、たった数人で全て行ってしまうのだからとてもじゃない仕事量だと思えます。たった初日、牛舎を見学しただけでも酪農は本当に大変な仕事だとイメージを改めました。

鈴木社長と奥様にご挨拶した後、すぐに長ぐつとつなぎに着替え、哺乳のお仕事を向かいました。哺乳担当の女性お二人に哺乳に必要なミルク作り、そして衛生管理など実際にお仕事を



哺乳作業中の堀野さん

を見せて頂きながらしっかりと哺乳の技術を学びました。それから毎朝5時30分から手伝いをさせて頂いたのですが、その間に仕事の内容だけではなく、鶴居村での暮らしのことについてもお話し頂きました。学校の生徒数・鶴居村の人口・村のイベント・村にある施設についてなど様々なことをお聞きしました。自分の出身地とのギャップに、びっくりすることだらけでし



た。何より一番気になったのが、過疎化のお話です。鈴木社長に鶴居村の防災訓練に連れて行って頂き、村人達の心の暖かさ、児童・生徒達の活発さに触れることができました。のびのびと生活ができて、自然も美しいこの村が、人口の減少によって衰退してしまうのはもったいないです。

その他、村の食堂や公園でのBBQなどで地域の方々とお話する機会を多く得ました。皆さん共通しているのが、この鶴居村が大好きだということです。素晴らしいのは自然だけでなく、鶴居村の制度までも驚かされました。他の市町村では信じられないような暮らしやすそうな制度ばかりで、少子化の今、子育て支援に力を注ぐ鶴居村に子持ちの一家が移り住めば、子どもにとって幸せなことこの上ないでしょう。もちろん牛や酪農の仕事について学ぶことが多かったですが、実習に来て一番刺激になったのが、村の方々とお話しや村での体験です。

私はまだぼんやりとですが、将来は村おこしのような仕事、地方の人々や文化の為になるような仕事がしたいと思いました。10日間という短い期間でしたが、本当に様々な体験ができ、将来の事も考えることができたのでとても有意義な実習になりました。お世話になった鈴木社長や鶴居村の方々に感謝しながら、これからも酪農について知識を深めて行きたいです。

## 釧路管内JA女性部員交流会 開催

～ピラティス体験等を実施し交流を深めました～



八月一日、釧路プリンスホテルで、釧路管内JA女性部員交流会が開催されました。

管内JAから部員・関係者合わせて五十九名、うち当JA女性部から十八名が参加し、ピラティス体験などで交流を深めました。

ピラティスとは、一般的な筋力トレーニングと違い、メンタル面・呼吸の取り方等の要素を取り入れ、肉体



昼食交流会・牛乳で乾杯!

の芯を整えるトレーニング法として、姿勢、肩こり、腰痛、冷え、むくみ等の症状に効果があるとされています。参加部員は普段から体を動かしているため、容易に取り組んでおりましたが、「簡単にでき、体も伸びて良かった。」との声も聞かれました。終了後は、昼食を取りながら意見交換を行ない、親睦を深めました。

ピラティスで体も心も健康に!

①

今回の講義で生産者の方々から直接お話を聞いたことで、「食」という形で私たちに関わっている動物たちのことをより深く理解することができた。また、一次産業ならではの魅力や苦勞なども知ることができ、大変良い機会になった。現代で浅くなってしまっている地域との関わりも、一次産業ではそれがとても深いということが魅力的だった。

人と人とのつながりは大切にすべきものだということを深く感じた。そして、人と動物との関わりについても改めて考えることができ、私たちはもっと命の尊さを知り、感謝の気持ちを持つべきだと思った。

私たち消費者は簡単に食べ物を残してしまうが、そ

の裏には人間のために命を削ってくれている動物がいることを常に忘れずにいたいと思う。

②

J Aは人と人との結び付きを大切にして力を合わせる協同組織である。組織者と利用者、運営者は同一であり、全員が一人一票の平等な議決権をもち一人は皆のために、皆は一人の為に協同理念とする。現在、全国での農業人口の減少、離農、農村における地域コミュニティの低下が懸念されている。

乳牛等の減少はあまり目立たないが、分娩前の牛(未經産牛)の減頭が深刻化している。これは、F1の受精率が著しく上がったことが要因である。それは、20%を超えると危険値とされ

ているが、都府県ではなんと40%、北海道では20%ほどである。これによるホルスタインの初妊牛の♀の価格が大幅に高沸し、北海道の牛がどんどん都府県に流れていった。これが酪農バブルの問題だ。

しかし酪農家の本分は乳生産であり、個体販売に甘んじないことが大切だ。JAでは、農家の高齢化を危惧して、その対策を様々な行っている。本学でもJAでの酪農実習にはお手当二万円が助費で出される。チャンスである。

農業の魅力とは何だろうか。一つ目は手をかけた分だけ、すぐではないけれども成果が正直に現れるということだ。例えば牛舎に顔をよく出せば♀の発情期の傾向を見つけることが出来る。

一頭の発情を見つけれなければ二万四千円の損失だ。何千頭に換算すれば、その収益は理解できる。

二つ目は、子育て環境の充実化である。目の前で両親が働いているところを子供が見ることは何よりの食育だ。また、農業による地域コミュニティの形成も利点の一つである。産業動物と向き合う人は、その動物の命を産業的にも動物的にも向き合うことが求められている。





### ③ 大学に入学する前は、ペ

ットに関する事に1番興味を持っていたが、いざ入学して授業を受けていくと畜産・酪農へと最近興味が移りつつある。

講師の方のお話からペットと畜産動物は、最期まで看取るか生産性が低下したら食のために殺すかという異なる命の向き合い方があると学んだ。この点から畜産動物は、人間に対して献身的な生物であるという言葉が現場で働いて直に動物と接している人だからこそ出てくるものだと考えた。生産者と消費者に距離がある現代のシステムから犠牲となつている動物に自然と感謝をすることは、今までの私にはできないことだつ

た。

しかし今日の講義、大学での授業を受けることで、畜産動物は身近になってきている。手をかけただけ成果が上がっていく経営、仕事を通じた人との出会い、魅力を知る機会が無いだけで、機会さえあれば日本が抱える担い手への問題も解決していくのではないだろうか。



### ④ 今回のセミナーを聞いて、

日本の農家が減少していることを改めて考えさせられた。実際に現場で働いている方から、リアルタイムの乳牛、経産牛の状況や、北海道の酪農経営について。

北海道の酪農では自動の搾乳ユニットなどの大型機械を多く投入して、作業を効率化していることを聞いた。

酪農の魅力は、手をかけた分だけ成果が出ること。これの毎日の蓄積が大切というのが、一次産業ならではのということ。

子育ての環境として、子供に命の尊さを教えられるし、子が親の仕事を見て成長でき、親と子の距離が近いこと。あとは、仕事を通じて色々な人との繋がりが

できること、だそうだ。

自分はこの大学に来て色々学ぶまで、農業は、ただ生産して売る仕事

となんとなく思っていた。しかし実際は、いかに効率よくいかに生産量を増やさんと農作物を作る過程で、様々な試行錯誤があり、それをどう消費者に消費してもらおうかと、農業経営者と農協が協力していた。自分分は、それを歯車のようにだと思つた。

農業は、やり方次第で非常に多くの可能性がある仕事だと思つた。農業というものへの素晴らしさを知ってもらえば、新しい担い手はできると思つた。農協には、今後も担い手対策をしてもいいと思つた。

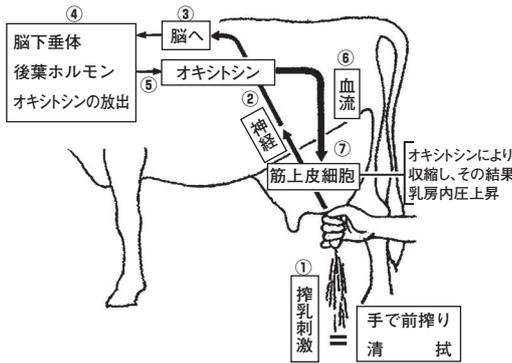


図1 オキシトシン放出の仕組み  
北海道農業入門畜産編より

搾乳刺激により、刺激が脳下垂体に伝達されることで、オキシトシンというホルモンが分泌されます(図1)。

**なぜ搾乳刺激が大切なのですか？**

酪農経営において、搾乳作業は、生乳生産の最後の工程です。ここで泌乳生理に合った搾乳を行うことが、生産性を上げる重要なポイントです。  
今回は、搾乳刺激に焦点を当てて、泌乳生理について考えてみたいと思います。

**搾乳刺激、足りていますか？**

オキシトシンは、乳房内の乳腺胞を収縮させることで、ミルカーの吸引力では吸い出せない乳汁を乳腺胞から降下させます(図2)。

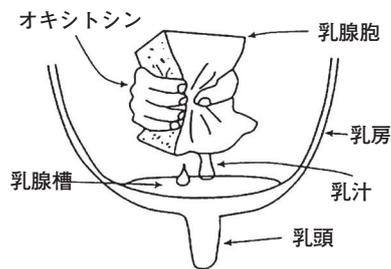


図2 オキシトシンの作用(イメージ)  
南根室地区農業改良普及センター  
平成12年営農改善資料より

搾乳刺激によって搾ることができる生乳は約六割も占めており、オキシトシンの効果的な利用を意識した搾乳刺激を行うことが重要です。

**オキシトシンを効果的に使うためのポイント**

- ・ 前搾りは強めに五回以上。
- ・ 乳頭清拭もしっかり強めに。(特に乳頭口を念入りに)

**【ミルカー装着】**

- ・ 乳房及び乳頭が張ってから装着する(目安は乳頭刺激から九〇〜一八〇秒後)。

**【事例】 搾乳刺激の改善による作業の効率化**

釧路市のA農場において、搾乳作業の自己点検として、ラクトコーダーを用いた搾乳立会を行いました。

ラクトコーダーとは、ミルククローとミルクラインの間に設置するミルクメーターです(写真1)。これにより、ユニット装着のタイミングや装着時間、総乳量、最大流速、体細胞の流入などがわかります。総合的にデータを見ることで、搾乳作業の善し悪しを評価します。



写真1 ラクトコーダー

**【改善前】**

搾乳立会の結果、前搾り回数は一〜三回であり、作業者によって強さもバラバラであることがわかりました。オキシトシンが上手く利用できていないためか、搾乳時間は約六分半(目標

五分以内)で、最大乳量も平均三・七kg/分(目標四・五kg/分)となっていました(表1)。

**【改善後】**

前搾りの回数を五回以上、搾乳刺激を強めにしたところ、平均搾乳時間が五分二十秒、最大乳量も平均四・〇kg/分と改善されました(表1)。

改善後	改善前	
5分 20秒	6分 30秒	平均搾乳時間
4.0	3.7	平均最大乳量 (kg/分)

表1 改善取組の結果

この結果は、乳頭刺激の強化により、オキシトシンを効果的に利用した搾乳ができたためと推察されます。

また、農業者からは「搾乳頭数が増えても搾乳時間は変わらなかった」との声があり、改善取組により労働の効率化を図ることもできました。

第一歩として自分の農場の搾乳刺激方法について、考えてみて下さい。

# JA北海道大会実践フォーラム

## 「パネルディスカッション」

### テーマ「協同の力で実現する農業所得20%増大に向けて」

JAいわみざわ 代表理事組合長 村木秀雄氏

「協同の力で実現する農業所得20%増大に向けて」と題したパネルディスカッションにおいて、パネリストの皆さんから頂いたご提言をシリーズでご紹介します。

第3回は、村木秀雄氏の提言を紹介します。



村木秀雄氏  
JAいわみざわ  
代表理事組合長

#### 営農指導で所得増大

営農・販売の強化を目指して、営農関連部門の機構改革を行ってから1年半。まだ十分な成果は出ていませんが、色々な意見を聞き、組合員とともに発展する農協となるため、頑張る所存です。農業所得20%増大に向けて、営農指導の関係では、出向く営農という形の中で、32名の職員を専属相談員として地域ごとに配置しました。やはり現場にしっかり出向かなければ、農家の人たちに指導するような

形にならないと考えます。

米、麦、玉ねぎについて各組合員の過去3年の平均収量をもとに、個別に指導しながら、レベルアップを図っていくようにしています。

例えば麦については、過去の収量が420kgに達していない組合員のレベルアップを図りながら、地域全体の農業所得を上げていく。そうした対策を取らなければならぬと考えています。

実践2年目にあたり、職員には個々に目標を持たせて取り組ませています。麦の今年の数字を見ますと、約40kg個人で収量が上がった実績があります。こういったことにしっかりと取り組みながら、組合員の要望に応えていきたいと考えています。

職員の育成面では、新しく配置した経験の浅い相談員を技術力を持った職員とペアで動かす中で、レベルアップを図っていききたい。また、組合員の部会にどう関与していくか。当JAではICT農業の普及を進めており、100戸

以上の組合員が組織を作って取り組んでいます。

その中に職員を上手く貼り付けて、組合員と職員双方でレベルアップを図る。

農協に必ずしも全てを任せるとは、生産者組織とともに技術レベルを上げていく、そうしたシステムを作っていくべきと考えております。

#### 組合員ニーズに応える販売

当JAの販売の中心は米ですが、年々集荷率が下がっています。ホクレンを含めて、単協もしっかりと対応していかなければ、集荷率がより下がっていくと考えています。米は、2年共計で精算されます。最終的には、ホクレンの共計価格と業者の価格は、大きな差がないと考えますが、組合員の年内精算を求める声に対応できないことが、集荷の大きな問題点であると考えています。組合員の要望に応えながら、業者のやることは農協もやらなければならない、そういう時代になつてきています。野菜は、ある程度相対の中で価格を決めて取引し



ています。青果物の安定取引に向けては、玉ねぎをはじめ、予約相対取引の枠を拡大していかなければならないと考えています。

玉ねぎ、白菜など、道外発送が非常に多いですが、やはり地元企業との結び付きを強化していきたいと考えています。

#### 最後に一言

昨年度は、営農関連部門の機構改革と併せて、6か所あった生産資材店舗を、資材センター化で1か所にまとめたことで、組合員からの批判も大きくありました。

ただ、組合員や青年部など若い人たちには、将来、自分たちのためになるなら、あるいは価格に還元できるなら、これも1つの方法と理解してもらっています。

コストを削減した分については組合員にしっかりと戻していきたい。そうしたことが役員の本音ではと考えています。

若い人たちが、どういう意見の中でまとまっているかを、常に農協運営では大事にしています。そういう意見を将来につなげていく役割が我々にはあると考えています。

# JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

## JA北海道中央会

昨年12月の「農協改革」に関する組合員向け資料に引き



続き「准組合員制度」についての組合員向け資料を作成しました。

准組合員利用規制に関して、農林水産省が結論を出す期限の平成33年3月末が迫る中、准組合員利用規制が及ぼす影響を、組合員の皆さん一人ひとりが考えるきっかけとしての活用を目的としております。本資料は、准組合員制度の成り立ちや准組合員が地域を支える実態、規制改革推進会議が准組合員利用規制を迫る背景などを、平易な対話形式により表現しております。

中央会のホームページに資料を掲載しておりますので、ご覧ください。

## JA北海道信連

8月に、小学生の親子を対象とした『旬食カレッジin旭川「収穫・料理教室」』をJAあさひかわの協力を

受け開催しました。大根の収穫体験、収穫した大根を使った料理教室、農業者による講演等を実施するなど、「食材が畑から食卓に並ぶまで」を体験していただき、農業・食の大切さを伝えることができました。参加者には、「農家を身近に感じた」「また参加したい」など好評でした。



参加した」と好評でした。



## ホクレン

LINE@等を



活用した生産者向け情報発信サービス「ホクレンインフォメーション」では生産者の皆様に向けたイベントや新商品の情報、生産資材（飼料や農薬など）価格、スマート農業情報などの営農情報をタイムリーに発信しております。今後とも生産者の皆様に役立つ情報を発信してまいりますので、ぜひお手持ちのスマートフォンやパソコン（<http://hokuren-news.jp/>）からご登録ください。



## JA共済連北海道

8月4日、札幌にて「全道LA・スマサポ大会」を開催し、全道JAの中から、平成28年度普及活動で優秀成績を収めたLA38名と、スマイルサポーター11名が登壇し、表彰しました。



JA共済では、これからも「3Q訪問活動」と「あんしんチェック（保障点検活動）」の実践を通じて、組合員・地域利用者の信頼と期待に応え、「安心」と「満足」の提供に努めて参ります



## JA北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様



様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。

年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。





<道民と食と農でつながるサポーター550万人づくり>

JA 北海道中央会根釧支所

# Facebook 始めました！！



QR コード (Android・iOS 共通)



みなさまの「いいね」「シェア」お待ちしております

当ページのカバー写真（メッセージボード掲示）

に登場して頂けるサポーター募集中！！

詳しくはJA北海道中央会根釧支所職員へお声がけ下さい。

TEL : 0154-22-0910 担当 : 高橋淳子、山本

## 交通事故による死者の約半数が高齢者です

交通事故による死者の半数が高齢者です。また、幼児や児童は通園・通学時に事故に多く遇っていることが報告されています。子供と高齢者本人が危険を知ること、尚書の思いやりが大切です。

## 高齢運転者による死亡事故も多く発生しています

運転に不安がある場合には、運転免許証を自主的に返納する制度があり、返納者に対する公共交通利用時の支援等も用意されています。お近くの運転適性相談窓口や市区町村にご確認ください。



子供と高齢者の安全な通行の確保と高齢運転者の交通事故防止

## 夜間はライトは必ず点灯！反射材を活用しましょう

夕暮れ時や夜間の見えにくい時間帯は、自分の位置を知らせることで、事故を防ぐことができます。自転車のライト点灯や反射材が、あなたを守ります。



反射材なし

反射材あり

夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止

## お酒を飲んだら絶対に運転しない

わずかなお酒でも、運転能力・判断能力を鈍らせるおそれがあります。「ちょっとだけ」の軽い気持ちで、重大な事故につながります。「乗らない」、「乗せない」、「飲ませない」を守りましょう。

飲酒運転の根絶



## シートベルトはどこに座っても必ず着用



乗車中に事故で亡くなった人のうち、シートベルトを着用していない人は、着用者に比べて致死率が14.5倍にもなります。どの座席でも必ず「シートベルト着用」、6歳未満の幼児は「チャイルドシート使用」してください。「チャイルドシート」は国の安全基準に適合したものを選びましょう。

適合したシートには、以下のいずれかの表示があります。

全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底



※E43以外均等地の規格も安全基準適合となります。

9月30日(土)は「交通事故死ゼロを目指す日」です



# 秋の全国交通安全運動

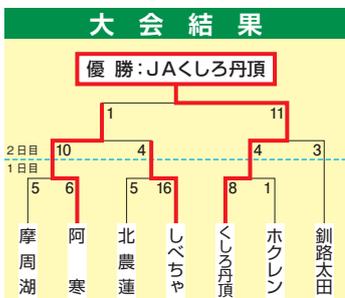
平成29年9月21日(木)から30日(土)まで



鈴木郁也監督兼選手



好投した北村正樹選手



**表彰者(丹頂のみ掲載)**

最優秀選手賞	北村正樹
敢闘賞	西村隆志
敢闘賞	鈴木郁也
特別賞	石動木
ホームラン賞	北村正樹

九月に江別市で開催された全道大会の結果は、次号で報告致します。

JA野球部は、初日にホクレンと対戦し、8対1で勝利しました。

二日目準決勝は釧路太田と対戦し、粘りの野球で4対3で勝利、決勝戦は阿寒と対戦し、鈴木郁也監督をはじめとする一人一人が全力でプレーする全員野球により、11対1で勝利し、昨年に引き続きみごと連覇を達成しました。

七月二十二・二十三日の二日間、標茶町営野球場で、釧路管内JA野球大会が開催され、7チームが出場し熱戦を繰り広げました。

**釧路管内JA野球大会  
連覇達成!!**

## 大変お世話になりました。



**中村 祐二**  
購買部燃料課  
鶴居給油所考査役

この度、平成29年7月31日をもちまして、釧路丹頂農業協同組合を定年退職いたしました。

昭和55年10月に、旧鶴居村農業協同組合に入組以来36年10ヶ月の長きに渡り務めさせて頂きました。組合員の皆様方をはじめ、地域の皆様、役職員、関係機関の皆様方にはお世話になり、無事にこの日を迎えることが出来ましたのも皆様方のおかげと深く感謝しております。退職後は、皆様から賜りました教訓を糧とし、新しい生きがいに向かって歩んで参りたいと思います。

最後になりますが、釧路丹頂農協の益々の発展と組合員並びに役職員の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、退職の挨拶とさせていただきます。

長い間お世話になり有難うございました。



**村上 弥**  
畜産生産部牧場課 幌呂育成牧場調査役

幌呂農協に昭和54年入組、丹頂農協平成29年退職、在籍38年。たいへんお世話になりました。

## JAやJA関連団体へ100%就職

### 大学・短大・専門学校・高校生大歓迎 第2回学生募集 JAカレッジ

- 60名 ●1カ年、全寮制 ●満24歳未満(平成29年4月1日現在)
- 大学卒及び見込、短大・専門学校卒及び見込、高校卒及び見込 **男女共学** JA、JA関連団体へ就職
- 試験日：12月12日・13日 ●願書受付：9月11日～11月20日消印有効 ●学校見学もできます

お問い合わせ  
資料請求

JAグループ総合養成校  
**JAカレッジ**

〒069-0811 江別市文京(江東町)13-1  
☎0120-918-117 JAカレッジ 研修部

# 理事会報告

## 7月定例理事会 平成29年7月31日(月)

### 報告事項

1. 専決事項及び諸会議について
2. 各委員会・諸会議等について
3. 6月末財務状況について
4. 事業の実施処理状況について
5. 内部審査の結果について
6. 理事に対する資金の貸付報告について

- 議案第2号 固定資産の取得について  
議案第3号 固定資産(土地)の処分について  
議案第4号 諸規程の制定について  
議案第5号 諸規程等の一部変更について  
議案第6号 諸規程の廃止について  
※以上全件原案通り承認されました。

### その他協議事項

1. 当面の業務日程について

### 付議事項

- 議案第1号 融資の承認について

■平成29年度	生乳生産実績(7月)			
	月計乳量(kg)	7月前年比(%)	累計乳量(kg)	累計前年比(%)
JAくしろ丹頂	8,462,729.0	95.6	33,685,958.7	95.7
鶴居地区	3,044,538.7	100.8	11,956,945.9	100.2
幌呂地区	2,247,809.4	95.3	8,917,278.1	95.6
白糖地区	1,752,748.8	95.3	6,994,868.9	95.1
音別地区	1,417,632.1	86.9	5,816,865.8	88.3
管内計	45,757,083.5	96.6	180,030,523.7	96.4
(前年度管内計)	47,352,765.2		186,846,626.1	

## 本所・事務所の電話番号が直通番号に変更になりました。

◆監査室 TEL(0154)64-2311 FAX(0154)64-2315

### ◆管理部

管理課 TEL(0154)64-2311 FAX(0154)64-2315  
融資審査課 TEL(0154)64-2311 FAX(0154)64-2315

### ◆金融共済部

金融課 TEL(0154)64-2313 FAX(0154)64-2315  
融資課 TEL(0154)64-2313 FAX(0154)64-2315  
共済課 TEL(0154)64-5477 FAX(0154)64-2315

### ◆営農部

農業振興課 TEL(0154)64-2661 FAX(0154)64-2315  
営農相談課 TEL(0154)64-2411 FAX(0154)64-2315  
哺育育成センター TEL(0154)64-2260 FAX(0154)64-2220

### ◆購買部

生産資材鶴居店 TEL(0154)64-2334 FAX(0154)64-2213  
Aコープ鶴居店 TEL(0154)64-2316 FAX(0154)64-2213  
鶴居給油所 TEL(0154)64-2121 FAX(0154)64-2945

編集後記  
EDITOR'S NOTE

□秋の訪れとともに、朝晩は急激に温度が下がり、昼間との温度差の激しい季節を迎えます。乳牛は寒さには比較的強い動物とされており、ホルスタイン泌乳牛の適温域は0～20度、哺乳子牛は13～25度といわれております。乳牛雌の平均体温は38.6±0.6度で、体温と気温の温度差が大きい時、乳牛は寒さを非常に強く感じているのではないかと思います。体温を奪われやすい子牛の飼養管理には十分気を付け、これから迎える冬に備えて参りましょう。